



宮城県循環型社会形成推進計画(第3期)(案)の概要

(ステップアップ!みやぎの3R ~皆で築こうみやぎの循環型社会, 新たなステージからの進展~)

【はじめに】

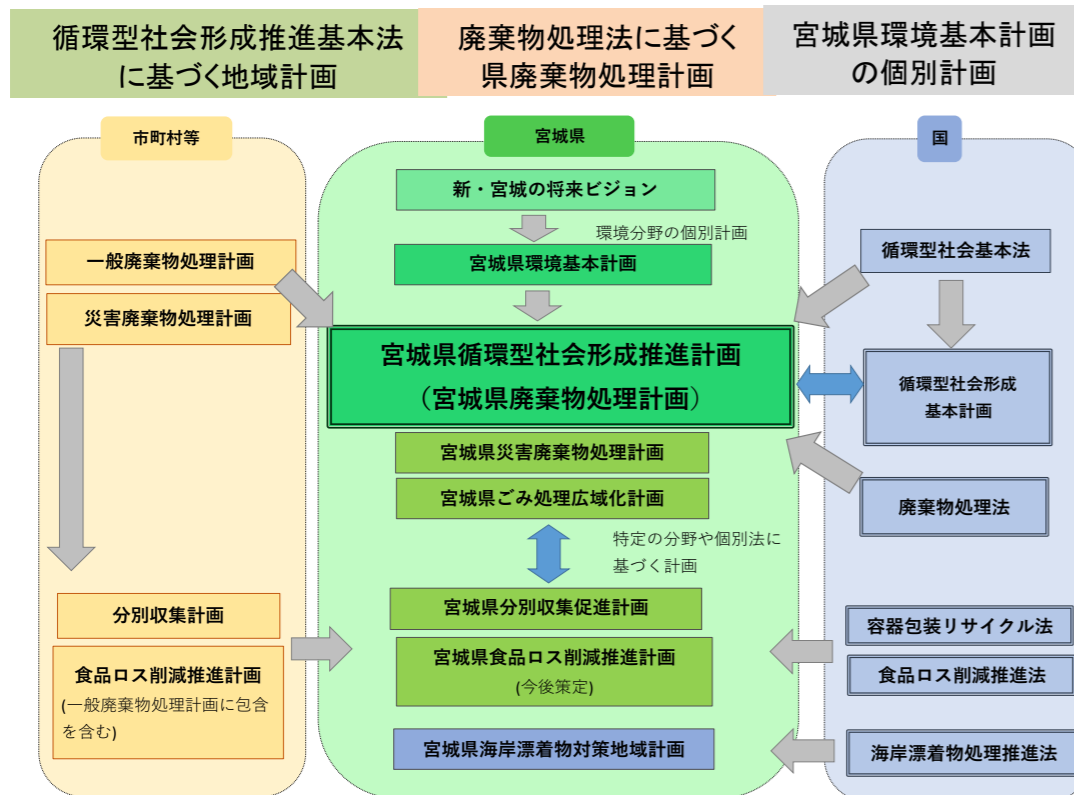
平成28年3月に策定した宮城県循環型社会形成推進計画(第2期)が令和2年度で終期を迎えることから、令和3年度からの計画期間を10年間とする第3期の計画を策定します。第2期計画では、東日本大震災の影響により後退した3Rの取組をリスタートさせることを主軸に各種施策を展開してきました。

これらの取組により、徐々に一般廃棄物の排出量が減少するなど、改善傾向にありますが、未だ震災前の状況まで回復していません。また、産業廃棄物では復興事業の収束によるリサイクル率の低下がみられるほか、復興に伴う事業活動の活発化に伴う新たな課題も想定されています。

さらに、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた議論が高まる中、海洋プラスチックごみや食品ロスの削減などの新たな取組を進めるための国の方向性が示されているほか、気候変動による近年の大規模災害の頻発化に伴う災害廃棄物の適正処理や新たな感染症対策に伴う生活様式の変化などの課題が生じています。

これらを踏まえ、復興に向けて展開してきたみやぎの3Rを多様な主体の取組とともに一段上へのステップアップを目指す新たな計画の策定が必要となっています。

【主な計画との関連図】 資料3 p2



【策定スケジュール案(令和2年度)】
資料6
[4月27日 環境審議会(諮問)]
7月31日 第1回専門委員会
8月~9月 第2回専門委員会
10月~11月 パブリックコメント
12月~1月 第3回専門委員会
1月 環境審議会(答申)
3月 策定・公表
県議会報告

◆循環型社会推進専門委員(敬称略)
東北工業大学大学院工学部 中山 正与
東北大学大学院環境科学研究科 松八重 一代
東北大学大学院農学研究科 冬木 勝仁
(一社)宮城県産業資源循環協会常務理事兼 事務局長 渋谷 辰夫
みやぎ生活協同組合環境管理室長 大原 英範
日本製紙(株)石巻工場工場長代理兼 安全環境管理課長兼抄造部長 中川 祐幸
仙台市環境局廃棄物事業部廃棄物企画課長 栗永 規行
※専門委員会議は3回開催し、その中で新計画策定案に対する各専門分野におけるご意見をいただきます。

【現行計画の評価と次期計画に向けた課題】 資料1

項目	目標値	平成25年度実績	平成30年度実績	達成状況	平成25年度との比較		
一般廃棄物	1人1日当たりの排出量(g/人・日)	930	1,018	972	未達成	改善	
	内訳	生活系ごみ	645	707	668	未達成	改善
		事業系ごみ	285	312	304	未達成	改善
	リサイクル率(%)	30	25.0	24.8	未達成		
最終処分率(%)	12	13.4	11.7	達成	改善		
産業廃棄物	排出量(千t)	10,000	11,168	10,962	未達成	改善	
	リサイクル率(%)	35	44.0	35.6	達成		
	最終処分率(%)	1	2.0	1.7	未達成	改善	

【課題】

○一般廃棄物の排出量の高止まり

震災の影響による県民の生活様式・生活拠点の変化などにより、3Rの取組が後退したことから、一般廃棄物の排出量が増え、高止まりになっている。

○産業廃棄物の排出状況の変化と処理状況

震災復興工事の減少に伴うリサイクル率の高いがれき類の排出量の減少により、近年は産業廃棄物のリサイクル率が下がってきている。

【重点課題の取組の状況と点検結果】 資料1 p9

【課題1】ごみの分別等の環境配慮の推進

県民の3Rに対する取組は、レジ袋辞退等目標を達成している。

【課題5】小型電子機器等リサイクル制度の推進

小型家電リサイクルに関する取組を行っている市町村は増加した。

【課題6】食品廃棄物等のリサイクルの推進

消費者や事業者の食品ロス削減に対する意識の向上は見られるが、さらにリサイクル率を推進する取組の必要がある。

【課題8】放射性物質が付着した廃棄物処理の推進

放射性物質汚染廃棄物の処理は、焼却やすき込み等の処理が進展してきている。

【課題9】震災経験を生かした災害廃棄物処理計画の策定

震災の経験を生かし、県の災害廃棄物処理計画を策定した。市町村の災害廃棄物処理計画の策定率向上に向けて、図上演習の実施等、引き続き支援していく必要がある。

【課題16】不法投棄防止対策の推進

不法投棄等の不適正処理事案が散見される。

新計画策定案

◆新計画での目指すべき姿 資料3 p3

全ての主体が3Rを推進する行動を行っています。廃棄物の循環資源としての利用が進み、本県の美しい自然環境が守られています。

【新計画の方向性】

◆基本理念 資料3 p4

ステップアップ!みやぎの3R

~皆で築こうみやぎの循環型社会, 新たなステージからの進展~

◆基本方針 資料3 p5

- ①全ての主体の行動の促進
- ②循環型社会を支える基盤の充実
- ③循環資源の3R推進
- ④廃棄物の適正処理

【新たな目標】資料3 p7-8

項目	現計画目標値	平成30年度実績値	将来予測※	新計画目標値(令和12年度)		
一般廃棄物	1人1日当たりの排出量(g/人・日)	930	972	952	930	
	内訳	生活系ごみ	645	668	654	645
		事業系ごみ	285	304	298	285
	リサイクル率(%)	30	24.8	26.6	30	
最終処分率(%)	12	11.7	10.9	10.5		
産業廃棄物	排出量(千t)	10,000	10,962	10,965	10,000	
	リサイクル率(%)	35	35.6	36.1	35	
	最終処分率(%)	1	1.7	1.7	1	

※一廃:「令和元年度みやぎの評価手法検討のための基礎調査」による。平成24年度から平成30年度までの宮城県内の総排出量を基にトレンド推計を行い算出したもの。

産廃:「令和元年度宮城県産業廃棄物実態推定業務報告書」による。各業種の平成30年度の活動量指標を1としたときの将来の増減率を乗じて算出したもの。

全国の一般廃棄物の1人1日当たりの排出量のトレンドを活用した宮城県の令和12年度の将来予測値は952g/人・日と現行計画の目標値を上回ったことから、令和2年度までに目指してきた930g/人・日を新計画目標値に設定した。また、県民1人1人の取組の効果が把握できるよう生活系の排出量を分けた内訳を継続して示すこととした。
産業廃棄物についても将来予測値により得た数値と現計画の目標値と比較検討し、新計画目標値を設定した。

◆新計画の構成・骨子

第1章 総論

第1 新計画の背景と趣旨



第2 新計画の位置付け

第3 計画期間と目指すべき姿

第2章 循環型社会の形成に向けて

第1 みやぎを取り巻く現状

第2 基本理念・基本方針

第3 みやぎが目指す循環型社会の将来像

第3章 課題と取組

第1 資源循環の更なる推進

(1)ごみの分別等の環境配慮行動の推進

(2)プラスチック類の3R

(3)紙類・繊維類の3R

(4)事業系廃棄物の3Rと環境配慮経営の推進

(5)食品ロスの削減及び食品廃棄物等のリサイクルの推進

- (6)各種リサイクル法の推進
- (7)地域における廃棄物等の循環利用

第2 適正処理の更なる推進

(1)最終処分場の整備に向けた取組と最終処分場の維持管理の指導の徹底

(2)不法投棄防止対策の推進

(3)適正処理の推進

第3 気候変動の影響に伴う大規模災害への対応

(1)災害廃棄物処理計画に基づく対策の実施

(2)災害廃棄物処理体制の構築

第4 循環分野における基盤整備

(1)循環分野の人材育成

(2)新技術の活用

(3)情報の発信・共有

(4)透明性の高い廃棄物処理システムの構築と優良事業者の育成

第4章 計画の進行管理

資料編

